

諸事業への橋渡し状況

(1) J S T 事業

事業名：平成15年度JST研究成果最適移転事業モデル化
予算規模：30,000千円 事業期間：平成15年度（1年）
もとなった研究シーズ：ETC誤作動防止用電波吸収パネル材料の開発
研究者（所属、役職）：高橋隆一（株式会社アイジー技術研究所）、安斎弘樹（鶴岡工業高等専門学校 助教授）
もとなったRSP活動：ETC誤作動防止用電波吸収パネル材料の開発
参加研究機関（企業含む）：株式会社アイジー技術研究所、鶴岡工業高等専門学校
研究概要：ETC誤作動防止用電波吸収パネル材料を、ITCの天井用として実用化するため大型タイルを表面に、磁性材料を混入した発砲樹脂シートを内部に、そして裏面に金属板を施した電波吸収材料を開発した。

(2) 文部科学省関連事業（除くJST事業）

事業名：都市エリア産学官連携促進事業（高性能リチウムイオン2次電池の開発）
資金を出す機関：文部科学省 予算規模：270,000千円（内本テーマ100,000千円） 事業期間：平成14年度～平成16年度（3年）
もとなった研究シーズ：高性能リチウムイオン2次電池の開発 有機電解による生体材料金属の粗面化
研究者（所属、役職）：仁科辰夫（山形大学工学部 助教授） 立花和宏（山形大学工学部 助手）
もとなったRSP活動：平成14年度育成試験「高速電池リチウムイオン2次電池の開発」 平成14年度育成試験「有機電解による生体材料金属の粗面化」
参加研究機関：株式会社エナストラクト
研究概要：電気自動車用の急速充放電リチウムイオン二次電池の基盤技術の開発

(3) 経済産業省関係事業（含中小企業庁、NEDO等）

事業名：即効型中小企業地域新生コンソーシアム研究開発事業
資金を出す機関：NEDO 予算規模：33,699千円 事業期間：平成14年度（1年）
もとなった研究シーズ：PET蘇生化プロジェクト
研究者（所属、役職）：井上 隆（山形大学工学部 助教授）
もとなったRSP活動：平成13年度育成試験「回収ペットボトル有効資源化技術の開発」
参加研究機関：山形大学工学部、山形県工業技術センター、東芝機械株式会社、クニミネ工

業株式会社、株式会社シグマ、未来化成株式会社
研究概要:既存のPET再生工場から産出されるフレークを付加価値の高いペレットに再生資源化する技術及びプラントを開発し、市場提供を目指す。

事業名：即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業
資金を出す機関：経済産業省
予算規模：184,952千円
事業期間：平成15年度（1年）
もともなった研究シーズ：高効率プリンタブル有機EL素子の開発
研究者（所属、役職）：城戸 淳二（山形大学工学部 教授）
もともなったRSP活動：シーズ調査及び橋渡し
参加研究機関：山形大学工学部、株式会社ジェイエムシーヒルストン、大日本印刷株式会社
研究概要：プリンタブルで高効率な有機EL材料、及び高精度なプリント装置を開発し、アプリケーションとして広告宣伝用の電子ポスターを試作する。

事業名：中小企業地域新生コンソーシアム研究開発事業
資金を出す機関：経済産業省
予算規模：23,000千円
事業期間：平成16年度～平成17年度（2年）
もともなった研究シーズ：複合材料を用いた新構造体の開発
研究者（所属、役職）：片桐 鉄哉（株式会社片桐製作所）
もともなったRSP活動：平成15年度育成試験
参加研究機関：株式会社片桐製作所、株式会社マイスター、山形大学工学部、山形県工業技術センター
研究概要：高機能cBN新合金を用いた超精密・微細加工用工具の開発

事業名：中小企業地域新生コンソーシアム研究開発事業
資金を出す機関：経済産業省
予算規模：23,000千円
事業期間：平成16年度～平成17年度（2年）
もともなった研究シーズ：次世代金型用鋳鉄材料の開発
研究者（所属、役職）：晴山 巧（山形県工業技術センター）
もともなったRSP活動：平成15年度育成試験
参加研究機関：株式会社渡辺鋳造所、株式会社山形チノー、株式会社コアタック、山形大学工学部、秋田大学工学資源学部、岩手大学工学部、山形県技術センター
研究概要：次世代金型用鋳鉄材料の開発

(4) その他の省庁関係事業

事業名：独立行政法人農業・生物系特定産業技術機構果樹研究所共同研究
資金を出す機関：独立行政法人農業・生物系特定産業技術機構果樹研究所
予算規模：未定
事業期間：平成16年度～平成18年度（3年）
もともになった研究シーズ：アバースキュラー菌根共生系を利用した作物生産
研究者（所属、役職）：俵谷圭太郎（山形大学農学部 教授）
もともになったRSP活動：アバースキュラー菌根共生系を利用した作物生産
参加研究機関：独立行政法人農業・生物系特定産業技術機構果樹研究所
研究概要：生物機能を活用した環境負荷低減技術の開発

(5) 都道府県単独事業

事業名：山形県中小企業創造技術研究開発費補助金
資金を出す機関：山形県、経済産業省 各1/2
予算規模：20,908千円
事業期間：平成13年度（1年）
もともになった研究シーズ：株式会社ハイテックシステム
研究者（所属、役職）：土屋 浩（株式会社ハイテックシステム代表取締役）
もともになったRSP活動：平成12年度育成試験「自律分散ネットワーク機器の試作」
参加研究機関：山形県工業技術センター
研究概要：マイクロ型セキュリティーセンサ機器の開発

事業名：山形県中小企業創造技術研究開発費補助金
資金を出す機関：山形県、経済産業省 各1/2
予算規模：5,700千円
事業期間：平成13年度（1年）
もともになった研究シーズ：青木安全靴製造株式会社
研究者（所属、役職）：牧野 健一（青木安全靴製造株式会社 技術開発部長）
もともになったRSP活動：ネットワーク型事業で展開したRBセラミックスの応用製品の開発に継続するコーディネート活動
参加研究機関：なし
研究概要：甲革のミシン目部分が樹脂層で覆われた製造コストの安価な製品の開発

事業名：山形県新分野探索研究事業
資金を出す機関：山形県
予算規模：500千円
事業期間：平成13年度（1年）
もともになった研究シーズ：イースタン技研株式会社山形工場
研究者（所属、役職）大滝 正太郎（イースタン技研株式会社山形工場 CPC室長）
もともになったRSP活動：平成12年度ニーズ調査活動に基づき、平成13年度独創的研究成果育成事業にコーディネートし、不採択になった案件の当事業へのコーディネート活動

参加研究機関：イースタン技研株式会社山形工場
研究概要：自然エネルギーの活用技術に関する研究（CPC型ソーラーシステム）

事業名：山形県企業振興公社地域技術助成金
資金を出す機関：山形県、経済産業省 各1/2
予算規模：3,000千円
事業期間：平成13年度（1年）
もともなった研究シーズ：株式会社白田製作所
（研究者所属、役職）：白田 良晴（株式会社白田製作所 代表取締役）
もともなったR S P活動：ネットワーク型事業で展開したR Bセラミックスの応用製品の開発に継続するコーディネート活動
参加研究機関：株式会社白田製作所
研究概要：無潤滑直線運動軸受けの市場開拓

事業名：山形県企業振興公社地域技術起業化助成金
資金を出す機関：山形県、経済産業省 各1/2
予算規模：3,000千円
事業期間：平成13年度（1年）
もともなった研究シーズ：イースタン技研株式会社山形工場
研究者（所属、役職）：大滝 正太郎（イースタン技研株式会社山形工場 CPC室長）
もともなったR S P活動：平成12年度ニーズ調査活動に基いた案件の公社事業へのコーディネート活動
参加研究機関：イースタン技研株式会社山形工場
研究概要：集光型（CPC）高効率ソーラーシステムの商品開発

事業名：ニューウェーブ研究創出事業費補助金
資金を出す機関：財団法人山形県産業技術振興機構
予算規模：1,000千円
事業期間：平成16年度（1年）
もともなった研究シーズ：超微粉碎加工による新規食品の開発
研究者（所属、役職）：飛塚幸喜（山形県工業技術センター 専門研究員）
もともなったR S P活動：平成13年度育成試験
参加研究機関：山形県工業技術センター
研究概要：山形県産農産物を超微粉碎加工し、粉末そのものを着色料＋風味素材として用いる全く新しい食品素材を開発する。

事業名：ニューウェーブ研究創出事業費補助金
資金を出す機関：財団法人山形県産業技術振興機構
予算規模：1,000千円
事業期間：平成16年度（1年）
もともなった研究シーズ：包接性高分子を用いた有機物質検出システムの開発

研究者（所属、役職）：幅上茂樹（山形大学工学部 物質化学工学科 助教授）
もとなつた R S P 活動：平成15年度育成試験
参加研究機関：山形大学工学部物質化学工学科、日本地下水株式会社
研究概要：ホスト分子をらせん状共役系高分子化合物へと機能化することにより、包接による高分子の高次構造・共役長の変化を利用した、簡便な特定有害有機化合物の検出システムを開発する。

事業名：ニューウェーブ研究創出事業費補助金
資金を出す機関：財団法人山形県産業技術振興機構
予算規模：1,000千円
事業期間：平成16年度（1年）
もとなつた研究シーズ：染料廃水の高速脱色のためのパルスパワープラズマ化学分解法の開発
研究者（所属、役職）：南谷靖史（山形大学工学部電気電子工学科 助教授）
もとなつた R S P 活動：平成15年度育成試験
参加研究機関：山形大学工学部電気電子工学科、東北整練株式会社
研究概要：染色工場の廃水は染料が低濃度でも色が見え、その脱色に手間とコストがかかる。パルスパワープラズマ化学分解法を用いることにより、染料を高効率で分解できさらに汚泥を出すことが無い。これにより廃水処理のコストダウンが図れる。